YOCコラム

Young Ophthalmologists Committee Hot Topics !

Instagram

YOCの新たな挑戦：国内交流プログラムと情報発信の展望

日本眼科学会戦略企画会議第二委員会
Young Ophthalmologists Committee

前回(128巻10号掲載回)は，Young Ophthalmologists Committee(YOC)設立の目的やこれまでの活動，今後のビジョンなどを紹介しました．今回は，YOCの現在の具体的な活動についてご紹介いたします．まず，世界各国のYOCでは独自のロゴを作成しており，Japanese YOCとして世界に認知されるため，我々も独自のロゴを作成しました．さらに，YOCでは「若手医師国内交流プログラム」「ホームページ」「コラム」の3つの活動を同時に進めております．これらの活動は，若手眼科医のキャリア形成に必要と考えられる交流の場や情報提供を目的としております．

ロゴ

未来感を取り入れ，日本の眼科医療の将来を担うメンバーをイメージしたデザインです．虹彩部分は無数のパーツで構成され，一つひとつが眼科医を象徴しています．それらが集結することで一致団結を表現しています．

若手医師国内交流プログラム

若手医師国内交流プログラムは，若手医師同士の交流を促進し，異なる施設で互いに刺激を受け，研究への関心を高めることを目的としています．これにより，組織の垣根を越えた意見交換を通じて，若手医師のネットワークを広げ，新しいイノベーションが生まれる基盤を作りたいと考えています．2023年秋にYOCメンバーが試験的に他施設への見学を行い，本プログラムの有用性を改めて実感しました．

本プログラムの本格的な運用に向けて，2024年7月より，若手医師の受け入れが可能な施設を募集し，同年11月に本プログラムへの参加を希望する若手医師を募りました(本年度の募集は11月30日で締め切らせていただきました)．**基礎研究や臨床研究に興味があり，他施設を見学してみたいが一歩を踏み出せない若手医師**にこそ，このプログラムに応募していただきたいと考えています．

ホームページ

YOCホームページでは，YOCの目標や活動内容を

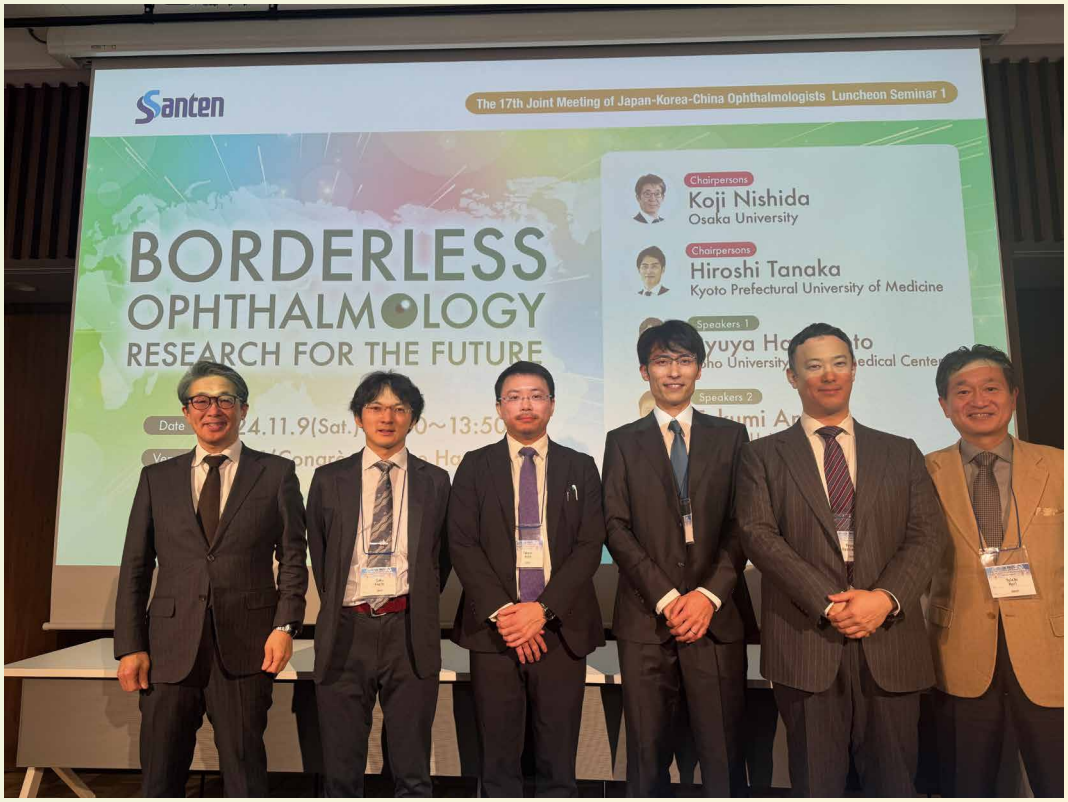

写真　ランチョンセミナー後.
左から，西田幸二先生，木内　岳，安藤拓海，田中　寛，橋本りゅう也，堀　裕一先生.

広く周知するだけでなく，特に若手眼科医の方々へ有益な情報を発信し，本会活動へのご理解・ご協力を得るべく，コンテンツの準備を進めています．まずは，若手医師国内交流プログラムの申し込みやプログラム経験者による体験記の掲載，YOC コラムのバックナンバーの公開，YOC が企画・運営する各種学会シンポジウムの告知などを予定しています．

オンライン化が進んだ今日において，ホームページの果たす役割は非常に大きくなってきています．今後，国内のみにとどまらず，世界各国の若手眼科医と積極的に交流しさまざまなコラボレーション企画を立案したいと考えており，また，交流窓口としての活用も視野に入れ，情報を多方面に発信する予定です．2024 年 11 月に開設され，日本眼科学会ホームページからアクセスできます(https://www.nichigan.or.jp/member/about/YOC/)．

コラム

YOC コラムでは，日本眼科学会雑誌を通して日本の若手眼科医のモチベーション維持や研究力向上，キャリア形成に必要な情報を発信していきます．海外留学や学会参加に関する情報は多くの媒体で特集として扱われることが多く，一括して閲覧することが難しいと思います．そのため YOC ホームページをハブとして利用し，コラムと併せて情報の集約も可能な範囲で行っていけたらと考えております．また，その他にも，研究の最前線で活躍する先生へのインタビューや海外留学体験記などを通じて，若手眼科医のやる気をさらに促進し，将来的には海外雑誌に倣ってポッドキャストや YouTube などのコンテンツも発信し，広く共有できる場を作りたいと考えています．

近況報告

2024 年 11 月に新たに 5 名の YOC メンバーが増え，総勢 15 名で活動することとなりました．上記の活動に加えて，YOC を盛り上げるための活動を積極的に企画し実行していきたいと考えております．また，第 17 回日韓中眼科ジョイントミーティング(2024 年 11 月 9 日＠コングレスクエア羽田)にて初の YOC によるランチョンセミナーを行いました．日本の YOC の活動は，中国や韓国の眼科医の方々にも共感いただき，今後はさらに国境も越えて他国の若手眼科医ともコラボしていきたいと感じました．

(文責：安藤拓海)